聖隷おおぞら療育センター
〒433-8558 静岡県浜松市中央区三方原町3453
TEL 053-437-1467

おおぞら

社会福祉法人 聖隷福祉事業団
医療保護施設・地域医療支援病院
総合病院 聖隷三方原病院
SEIREI MIKATAHARA GENERAL HOSPITAL

第226号
2026年4月1日発行

発行責任者 山本貴道
編集者 木部哲也

http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/

「おおぞらの在宅支援の現状と課題」

所長 木部 哲也

おおぞら療育センター（以下おおぞら）は、平成23年に増床して以来、入所機能に加え大きな在宅支援機能を持ち在宅支援を行っています。運営方針として、「十分な在宅支援機能を持つこと」そして「常時入所施設に空きがあること」により、できるだけ長く在宅で過ごして、在宅が困難となったとき速やかに入所ができるよう支援していくことを掲げて実践しています。具体的には20床のショートステイ枠を持ち、平成27年11月からはその一部を「レスパイト入院」という枠組みに変更しました（レスパイトとは休息という意味です）。これは、人工呼吸器管理、先天性心疾患、てんかん重積など、医療ケア度や急変リスクの高い利用者については病院としての機能を十分に活用するための対応です。今回は、最近のショートステイおよびレスパイト入院の現状と課題について述べたいと思います。

ショートステイの対応件数は、増床前の平成22年度は1,314件でしたが、平成25年度には2,095件、平成27年度にはショートステイ2,134件・レスパイト入院139件へと増加しました。その後、レスパイト入院の割合は徐々に拡大し、平成31年度にはショートステイ1,589件に対し、レスパイト入院は588件となりました。

令和2年度以降はコロナ禍の影響を受け、利用制限や利用前検査、受け入れ曜日の限定といった運用変更を余儀なくされました。その結果、直近の令和6年度はショートステイ793件・レスパイト入院436件、令和7年度（12月まで）は644件・331件となっています。全体数はピーク時の5～6割程度に留まっているものの、全体に占めるレスパイト入院の割合は3～4割を維持しており、医療ケア度の高い方々のニーズは依然として高い状況です。

新規の利用希望に際しては、外来診察でこれまでの経過や処方薬などの医療状況、在宅ケアの様子、介護者の家族状況などを確認します。また、急変時についても、その時点で受けたい医療、受けたくない医療についての家族の考えを聞くようにしています。

後日、在宅支援の看護師が自宅訪問した上で実際のケアを確認します。利用者家族との相互理解と信頼関係が何より大切と考えており、時間をかけてお話を聞かせていただきます。その後の状態変化やケアの変更については、原則として主治医からの診療情報提供書を通じて確認を行っています。

そうした中で見えてくる様々な課題もあります。特にレスパイト入院の対象者は、単に医療度が高いだけでなく個別性も非常に高いため、受け入れ時の栄養・服薬・呼吸管理の確認に多大な時間を要します。また、ケア度の評価が難しく、家族と施設の双方に過度な負担が生じる可能性があります。こうした重症児の受け入れが特定の施設に偏ると、施設間でのケア提供体制や人材育成に格差が生じてしまいます。今後は、受け入れが偏らないような地域連携の構築が求められます。

また、成人期への移行も重要な課題です。小児科から成人診療へと移行する際、ケアの決定プロセスが複雑化し、体調不良時の相談先が曖昧になる例も見られます。近年、医療選択の意思決定における移行期支援の重要性が叫ばれていますが、すべての利用者が十分な支援を受けられる体制を望みます。そして移行期支援が確実に機能するためにも、医療界全体の理解と協力が不可欠です。

おおぞらは、今後も在宅支援を通じて緊急時にも対応できるセーフティーネットの役割を果たしていきます。一方、在宅支援の問題は一施設だけで解決するものではありません。地域、あるいは社会全体で支えていく仕組み作りを、関係者とともに考えていかなければならないと思います。

リレーエッセイ

家族のたからもの

杉山 亜沙美

我が家には、1匹の愛犬がいました。写真は、昨年亡くなる数ヶ月前に、家の前で撮ったお気に入りの1枚です。

息を引き取ったのは突然でした。その数分前まで自分の足で散歩し、大好きなおやつも食べていました。家族から連絡が来たとき、信じられませんでした。朝、「行ってくるね」と寝ている愛犬を撫でたのが、最後になるとは。

15歳の老犬で、いつその時が来てもおかしくない年齢でした。それでも最後まで寝たきりになることもなく、大好きなお散歩はよたよたしながらも自分の足で歩き、ご飯やおやつももりもり食べ、とても老犬とは思えない我が家の元気印でした。

歳が老いるにつれ、家族の生活の中心になっていた愛犬。大変だったことも、今思うとそれすらも愛おしく懐かしく思います。

最近は、たくさん撮っていた写真が足りない！と思うくらいに、毎日愛犬の写真を眺め癒やされるのが日課です。

おおぞら食事紹介

当施設では、利用者様の咀嚼や嚥下の機能に応じた食事形態（普通食・キザミ食・ペースト食・胃瘻食）で提供しています。

食事形態

胃瘻食	ペースト食	キザミ食	普通食
副食をペースト状にしたものにペースト粥を入れ攪拌した食事	ミキサー食 副菜はペースト状の食事	消化吸収が容易にできる調理法を用い、容易に咀嚼ができるレベルの食事	加熱された軟菜の食事 キザミ食に比べると咀嚼力が必要

また、月１回の食育メニューや行事食を実施し、毎日のお食事を楽しく美味しく安全に召し上がって頂けるよう日々取り組みを重ねています。

2月節分の日の行事食メニュー

「そらまめ饅頭豆乳仕立て」

栄養課　管理栄養士：原・青木

苦情解決委員会

2025年10月～2025年12月
期間中公表を希望される苦情はありませんでした。
（期間中、受付した苦情１件でした）

	11月	12月	1月
ショートステイ利用者数（延べ利用日数）	49人（253日）	45人（240日）	50人（233日）
放課後デイ利用者数（延べ利用日数）	16人（79日）	17人（93日）	19人（92日）
実習者数（グループ数）	0人（0グループ）	0人（0グループ）	0人（0グループ）

あすか利用者の日常生活（小集団活動について）

田邉　愛

あすかでは、今年度から週に1回、同世代の子どもたち数名で小集団活動を行っています。今年度は、大型絵本の読み聞かせやカラーシーツ、楽器演奏、新聞紙遊び、光遊び、季節の遊びなどを行ってきました。小集団活動では、利用者に合わせた個別的な働きかけを基盤に、職員と利用者の1対1の関わりだけではなく、周囲の様子に意識を向けたり、職員を介して他利用者の存在を感じ、交流するような時間を過ごせたら良いと考えています。小集団活動の時間には、同じくらいの年齢の子どもたちが近くで過ごせるようにリビング設定をし、間に職員が入り、声かけをしながら活動を行っています。

Aさんは、始まりの音楽が流れると表情を緩ませ、職員の方に視線を向けます。活動が始まると、自分の順番が来るまで、顔を上げて周囲の音や声を聞いて笑顔で待っています。順番が来ると真剣な表情になり、集中がより高まっています。光遊びでは、アルミシートで本人を囲むと、体に力が入り、少し緊張している様子でした。ライトが点き、光が動いたり、反射すると、ハッとした表情になり、顔を上げてよく見ていました。粘土遊びでは、本人の前に粘土を持っていくと、目を見開いてジッと粘土に注目しています。職員が粘土をこねている様子を見て、徐々に表情が緩み、びよ～んと粘土を引っ張り伸ばすと、大笑いしています。次に、本人の手の平に粘土を乗せると、真剣な表情で、小さく指を動かし、軽く手を握ったり開いたりして、手元に意識を向けて、感触を楽しんでいました。

Bさんは、職員が活動の準備をしていると、物音や声を聞いて表情が明るくなっています。始まりの音楽が流れると、真剣な表情に変わり、ジッと音楽に耳を傾けています。職員が始まりのあいさつをすると、視線をキョロキョロと動かし、周囲に意識を向けているのがわかります。カラーシーツでは、自分の順番が来るまで、周囲の音や声に意識を向けていました。自分の番になると緊張した面持ちで、シーツが上に上がるたびに目を見開き、近づくたびに身構えるように目を細めたり、体に力が入っています。シーツが本人の上からパッとなくなると、終わりを感じて力が抜けていました。次に他の利用者のところで行っていると、職員が「いーち、にーい、さーん・・・」とカウントする声を聞いて、声を出して笑っていました。職員の明るい声と、カウントの抑揚に面白さを感じて楽しんでいました。

個別に行っている活動と小集団活動では、似たような内容の物であっても、気持ちの入り方が異なったり、本人に向けた直接的な関わり以外にも、どんなことに意識を向けているのかなど、新たな気づきも多いです。利用者も、職員や他利用者との関わりが間に入ることで、場の盛り上がりなどを感じ、他利用者と一緒に過ごす空間を楽しんでいます。

あさひ20歳の祝会

今年は2名の方が20歳を迎えられました。職員からのお祝いの言葉、ソープフラワーとアルバムのプレゼント、職員による演奏・合唱・群読を行いました。ソープフラワーは利用者のイメージで色を選び、アルバムはアルバムの色、貼る写真・装飾などを職員が選んで作成しました。いつもとは違う雰囲気を感じながらも記念撮影の頃には表情を緩ませていました。

人生の節目の時をあさひで一緒に過ごせたことを職員一同嬉しく思います。

写真掲載の許可をいただいております。

日常活動報告会

今年度も11月8日、29日と2回に分けて日常活動報告会を開催し、多くのご家族・後見人の方にご参加いただきました。まずはじめに、エレベーターホールにて木部所長のあいさつがありました。木部所長のお話は、療養介護施設における日常活動の重要性と、おおぞらが力をいれているACPの取り組みについてでした。そのあとはそれぞれのゾーンに別れ、報告会を実施しました。画像や映像を見ながら、普段直接支援している職員より日常生活でのエピソードや健康に関することなどをお話し、ご家族・後見人の方と共有しました。職員の話だけでなく、画像や映像を通して利用者の集中しているときの表出、楽しんでいるときの表出なども見ていただけたため、報告した職員としても普段の生活の様子がご家族や後見人の方に伝わった手応えがありました。また、利用者の昔の話、ご自宅でのエピソードなども聞くことができ、大変有意義な時間となりました。

1号館

2号館

3号館